

Ishikawa
Medical
石川県地域医療支援センター 広報誌
WAVE
いしかわ メディカル ウェイヴ

2017
Summer

第17号



石川県地域医療支援センター

石川県脳卒中地域連携推進協議会 10年の歩み

最大の強みは“顔”が見える連携。 脳卒中の地域連携で全県をカバー。

病院間や施設、開業医との地域連携が進んでいる。そのなかで急性期、回復期、生活期を含めた医療と多職種の連携が最も進んでいるのが、脳卒中の分野だ。脳卒中連携パスを中心に、顔の見える医療で患者の在宅復帰などをサポートする。石川県脳卒中地域連携推進協議会の会長でもある金沢大学附属病院脳神経外科の中田光俊教授に聞いた。



金沢大学附属病院
脳神経外科

中田 光俊 教授

中田●私の前任の濱田潤一郎教授（故人）が、脳卒中の医療連携の仕組みづくりに心血を注がれたことが実を結んでいるように思います。脳卒中は急性期はもちろん、急性期以後の回復期リハビリ、生活期の過ごし方が患者さんの生活復帰、職場復帰に大きくかかわってきます。それゆえ急性期、回復期、生活期が一体となって機能できる組織を地域に根づかせていくことが重要です。その考え方から、平成20年に石川県脳卒中地域連携推進協議会が発足、医療連携がスタートしました。しかし実際の運用にあたっては、各期が切れ目なくつながるのはなかなか大変な作業だったと思います。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護士など多職種間で意識や情報を共有し、脳卒中連携パスのスムーズな運用を図るためにどうしたらいいか。患者さんが満足できる仕組みになっているか。様々な問題を、普段患者さんとかかわる人たちが定期的集まって話し合い、連携パスの中身はこれで良いかどうかなど繰り返し検証し、修正してスムーズな運用ができるようにご尽力されたと思います。その成果が発足からほぼ10年が経過して、着実に浸透してきているように感じます。

—スムーズな医療連携を示す具体例としてどのようなことが挙げられますか？

中田●急性期医療の分野について最新のトピックスを挙げると、移動式血栓除去チーム（Kanazawa mobile embolectomy team：KMET）を組織し、急性期脳梗塞の血管内治療が行えない病院に出張治療を実施しています。KMETは、脳血管内治療を専門とし、指導医の資

10年が経過して安定した組織

—各診療分野で医療の地域連携が進んでいます。そのなかで急性期と回復期、生活期が一体となったシームレスな連携が最も進んでいるのが脳卒中の分野だとされています。その理由はどんなところにあるとお考えですか？

格を持つ3人の医師で構成されている専門チームで、県内の関連病院から脳の血管内治療が必要な患者さんが発生した場合に出勤し、出張治療を行います。脳卒中は時間との勝負です。要請があればすぐ現場に駆けつけられるように、24時間365日の体制で待機しています。KMETは、もともと脳卒中の画像を遠隔操作でやりとりする画像転送システムがきっかけです。能登地区や加賀地区の関連病院から、脳の血管内治療の患者さんが発生した場合、どうしたらいいか相談を受け、組織されました。急性期脳梗塞の治療は、血栓を溶解するためにt-PA静注療法（血栓溶解療法）を行います。必ずしもそれで血栓が溶解するとは限りません。脳外科専門医がない、またはいたとしても脳梗塞のように緊急を要する場合、大学病院まで距離が遠いと搬送に時間がかかり、患者さんの予後に影響します。それゆえ、脳内の比較的太い動脈が閉塞した場合、血栓を除去するカテーテル治療が有効であることが2年前にエビデンスで明らかとなってから当院では直接、KMETが出勤しています。急性期の脳梗塞に対する血栓除去治療を県内全域でカバーしているのは、全国でも石川県と鳥取県だけです。これを達成しているのはKMETの働きが大きいと考えています。

脳卒中にかかわる専門医を増やしたい

—急性期以外ではどんなことが成果として挙げられますか？

中田●石川県脳卒中地域連携推進協議会では毎年、年報を発行しておりますが、それによると脳卒中連携パスに参画される病院や関連施設は年々増えています。数だけ見ても数百はあります。病院、施設、開業医さん、薬局などがそれぞれうまく機能していますし、各職種間で意識を共有し、それぞれがコミュニケーションできる脳卒中連携パスにするために、在宅医療チームとの「コラボ研修会」や「いしかわ診療情報共有ネットワーク」を通して患者さんの情報を、職種間で共有できるようになっていることも大きいと感じます。

—コラボ研修会や診療情報共有ネットワークを医療連携にどう生かしているのですか？

中田●コラボ研修会は私も参加したことがありますが、在宅医療をサポートしている開業医さんや訪問看護師、



薬剤師、作業療法士、栄養士、ケアマネジャーなどの人たちが集まって、一人の模擬患者さんの状況を話し合い、連携パスの改善点を見出します。また、私たち急性期の医師は、退院された患者さんがその後どういう状況なのか、知る機会がなかなかありません。それを実際にかかわっている薬剤師さんや栄養士さん、ケアマネジャーさんたちとの研修を通じて聞くことができるのは非常に参考になります。多職種の人たちが患者さんとそれぞれどんな思いで向き合っているかがわかりますし、私たちの励みになります。コラボ研修会ではそれぞれの職種間で情報交換しながら、連携づくりに生かしています。また、診療情報共有ネットワークによって、患者さんがかかっていた病院の医療情報、なかでも神経所見や既往歴など服薬についての情報がわかると、患者さんの状態を的確に把握するためにずいぶん役立ちます。

—今後の脳卒中連携についてどんなふうに応用させていこうとお考えですか？

中田●脳卒中の地域連携は、能登から加賀までしっかりと組織化され、いまや自然に大きくなっていける組織になっています。そのような中で今後10年先を見越して、脳卒中にかかわる専門医を何とか増やさないといけないと考えます。これは私の最大のミッションといっても過言ではありません。石川県脳卒中地域連携推進協議会という組織があることは、これから脳神経外科医を目指す人たちにとって非常に有難いと思います。地域連携が進むことで私たちが何よりも良いと感じているのは、地域の医師や多職種の人たちと「顔」が見える関係を築けることです。それが安心、信頼にもつながります。若い脳外科医を一人でも多く育てることで、さらに地域連携に貢献したいと思っています。

平成28年度 在宅医療推進事業報告会

【開催日】平成29年3月12日 【会場】金沢都ホテル 地下2階 セミナーホール



近藤 邦夫 氏
石川県医師会会長

「在宅医療推進事業報告会」は、3月12日金沢都ホテルセミナーホールで開かれ、14の在宅グループが平成28年度に実施した取り組みや課題、今後の方針について発表しました。参加した関係者はそれぞれの地域の特性を踏まえた活動報告に耳を傾け、よりよい在宅医療の実現に向けて議論し、考えを深めました。

石川県医師会の近藤邦夫会長の開会挨拶から始まり、14の在宅グループが1年間の活動を報告。食事介助や認知症ケア等の研修会、症例検討のグループワーク、多職種との連携の工夫など地域の実情を考慮して実施した結果と、そこから見えた問題点などを発表しました。また石川県医師会の佐原博之理事より、平成28年度の石川県医師会在宅医療推進事業についての報告も行われました。

【座長】〈前半〉石川県医師会 理事 長尾 信 氏 〈後半〉石川県医師会 理事 佐原 博之 氏

平成28年度 石川県医師会在宅医療推進事業報告



【発表者】
佐原 博之 氏
石川県医師会理事

1 在宅医療・介護連携推進事業

- 在宅医療連携グループの活動支援
- ICTを用いた医療・介護情報の共有
- 在宅医療地域リーダー研修会の開催
- 県民公開講座の開催
- 在宅医療連携グループ成果発表会の開催

2 認知症対策

- かかりつけ医等認知症対応力向上研修の開催
- 認知症サポート医の養成、認知症サポート医等を対象としたエキスパート研修

平成28年度 在宅医療連携グループ活動報告



【発表者】
佐原 博之 氏

ななお紫蘭の会

代 表： 円山 寛人 氏

- 事業内容：
- 代診医の輪番制による訪問診療
 - 会議の開催(在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討)
 - 研修会の開催(グループワークによる多職種連携、介護職を対象とした医療関連の研修等)
 - 地域住民への普及啓発(シンポジウム等の開催、パンフレット、チラシ等の活用、看取りに関する講演会等の開催)



【発表者】
中村 志帆 氏

あじさい会

代 表： 安田 紀久雄 氏

- 事業内容：
- 研修会の開催(緩和ケア、口腔ケア、精神障害・知的障害等)
 - 事例検討会(看取り)
 - 多職種からの意見交換会
 - 多職種チームで年2回のレクリエーションを行い、連携強化



【発表者】
松沼 恭一 氏

はくい在宅研究会

代 表： 松沼 恭一 氏

- 事業内容：
- 幹事会の開催(地域包括ケアシステムの情報交換等)
 - 認知症事例検討会、認知症座学の開催
 - フォーラム、講演会の開催(口腔ケア、看取り等)



【発表者】
田口 佐和子 氏

わじまケアネット(能登北部医師会)

代 表： 谷口 広之 氏

- 事業内容：
- 連携会議の開催(病院関係者、地域医療関係者、介護保険施設嘱託医)
 - 多職種合同事例検討会の開催(在宅支援、退院支援)
 - わじまケアネット市民フォーラムの開催(地域包括ケア等)



【発表者】
橘 秀樹 氏

加賀市在宅医療連携推進協議会

代 表： 橘 秀樹 氏

- 事業内容：
- ワーキンググループの開催(在宅 ID-Link の活用、医療と介護の連携)
 - 研修会の開催(加賀地区地域リーダー研修会、地域事例検討会、医療と介護の合同勉強会等)
 - 市民への周知啓発の実施(市民向け講座、市民アンケートの実施)



【発表者】
勝木 保夫 氏

こまつ在宅医療研究会

代 表： 佐竹 良三 氏・勝木 保夫 氏

- 事業内容：
- セミナー、コラボ研修会の開催(脳卒中、高齢者介護等)
 - アンケート調査の実施(介護事業所における医療職の定着の向上に向けたアンケート調査)
 - 多職種の意見交換会の開催



【発表者】
笹島 亜希子 氏

メモリーケア・ネットワーク能美

代 表： 水毛生 直則 氏

- 事業内容：
- 認知症初期集中支援チーム活動・検討委員会の実施
 - 認知症ケアパスの作成
 - 在宅医療・介護情報調査
 - 在宅医療・介護資源マップ作成
 - 多職種での検討会(かかりつけ医等認知症対応力向上研修事例検討会、診療報酬と介護報酬の勉強会、市民公開講座、保健医療介護地域の連携会議等)
 - MCNbook (IT を使った情報共有)の検証



【発表者】
七野 奈美喜 氏

河北認知症を地域で考える会

代 表： 沖野 惣一 氏

- 事業内容：
- 多職種研修会の開催(虐待防止研修、ケアプラン研修等)
 - 医療と介護の連携・連絡表の作成
 - 医療・介護資源のリスト・マップの作成
 - 医療・介護関係者へのアンケート調査
 - 住民への情報の普及啓発の実施(認知症にやさしいまちシンポジウム等)



【発表者】
古谷 亜希子 氏

白山ののいち「医療と介護のシンポジウム」運営委員会

代 表： 松葉 明 氏

- 事業内容：
- 市民公開講座の開催(第1部は講演、第2部はシンポジウム)



【発表者】
西尾 正史氏

白山市在宅医療連携協議会

代 表： 真田 陽氏

- 事業内容：
- サービス連携会議の開催
 - 医療と介護を支える職人のプレゼン大会の開催
 - 加賀脳卒中地域連携協議会とのコラボ研修
 - 在宅医療・介護資源マップの作成
 - 在宅医療・介護連携に関する相談支援、住民への普及啓発



【発表者】
鍛冶 恭介氏

かなざわ在宅ICTネット

代 表： 橋本 英樹氏

- 事業内容：
- 事例検討会の開催(認知症等)
 - 講演会の開催(医療介護講演会、ACP 講演会、在宅4グループ合同研修会等)
 - 病院との連携事例カンファレンスの開催
 - ICT (ハートネットホスピタル)の普及啓発



【発表者】
西村 逸平氏

金沢元町在宅医療を考える会

代 表： 近藤 邦夫氏

- 事業内容：
- 体験型研修会とコラボ研修の実施(口腔ケア、脳卒中、認知症の方へのアプローチ、こころの病等)
 - かかりつけ医等認知症対応力向上研修の運営企画
 - 認知症カフェ(お寺で息災カフェ：妙国寺)の開催



【発表者】
大谷 千晴氏

りくつなケアネット金澤

代 表： 黒瀬 亮太氏

- 事業内容：
- 研修会・コラボ研修会の開催(脳卒中、高次脳機能障害、職種の理解等)
 - 事例検討会の開催(がんのターミナル期の症例、認知症地域事例検討会等)
 - ベクチャー会(座談会)の開催(ヒヤリハット、QOL)
 - 地域カフェの開催(幸園寺カフェいらしての会)
 - イベントへの参加(金沢西病院創立記念祭、公民館祭り、地域カフェ等)
- 事業外協力：
- 地域カフェ開催(似雲庵カフェ)
 - 石川県栄養士会厚生労働省栄養ケア活動支援整備事業(アンケート実施協力・多職種協議会参加等)



【発表者】
増永 高晴氏

いしかわ921在宅ネットワーク

代 表： 西村 元一氏

- 事業内容：
- 研修会の開催(地域包括支援センターの機能を知り上手に連携しよう)
 - 市民公開講座の開催(家で看取るっていいもんだ)
 - 施設自慢コンペの開催(多職種連携の研修、交流会)
 - 認知症見える事例検討会(4回)

平成29年度在宅医療推進事業についての行政計画

平成 29 年度の事業計画

- 病床の機能分化及び連携による質の高い医療提供体制の整備
- 在宅医療の充実
- 医療従事者の育成・確保

【発表者】
木村 慎吾氏
石川県健康福祉部地域医療推進室室次長



【閉会挨拶】 石川県医師会 理事 佐原 博之氏

在宅医療と介護の連携体制を構築するための県の取組のご紹介

石川県では、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、あるべき医療提供体制を構築していくため、病床の機能分化及び連携による質の高い医療提供体制の整備、在宅医療の充実、医療従事者の育成・確保など、関係団体とともに様々な取組を進めています。

■ 在宅医療連携システム推進費【県医師会】

- ▶ 在宅医療推進協議会や在宅医療推進委員会の開催
- ▶ 地域リーダーを対象とした研修会の開催
- ▶ 県民公開講座の開催
- ▶ 在宅医療成果発表会の開催

■ 在宅医療・介護連携推進事業

【県看護協会、県介護支援専門員協会】

- ▶ 医療と介護の橋渡しを担うコーディネーター等を対象とした研修会の開催

■ 回復期病床への転換支援事業

- ▶ 回復期病床（地域包括ケア病棟・病床、回復期リハビリテーション病棟）に転換する病院に対する施設・設備の整備

【施設】 基準額4,540千円／床（新築）、3,333千円（改築）、補助率1／2

【設備】 基準額10,800千円／施設、補助率：1／2

■ 認知症医療提供体制整備事業

- ▶ 認知症疾患医療センターやそれに準じた病院（精神科・神経内科を有する病院）に対する、BPSDを有する認知症患者のケア充実のための施設・設備の整備、身体合併症の治療の充実のための施設・設備の整備、リハビリ・在宅復帰支援のための施設・設備の整備
- ▶ 一般病院（地域包括ケア病棟を有する病院）に対する、認知症の悪化予防に取り組むための施設・設備の整備

■ 認知症対応力向上研修会【県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会】

- ▶ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師を対象とした認知症対応力向上研修会をそれぞれ開催
- ▶ 医師（かかりつけ医）向けの研修会は、座学と地域事例検討会の2本立てとし、地域事例検討会については、9郡市医師会（金沢市は4ヶ所の在宅医療連携グループ）ごとに多職種が参加する形式により開催

■ 認定看護師養成コースの開設

- ▶ 県立看護大学における認知症認定看護師教育課程の開設

■ 医療・介護情報共有推進事業費

- ▶ いしかわ診療情報共有ネットワーク推進協議会・運営委員会等の開催
- ▶ かかりつけ医から情報発信するためのアップロード機能の整備
- ▶ ケア関連施設への携帯端末の配備
- ▶ 活用事例報告会の開催

平成28年度糖尿病対策成果発表会

〔開催日〕平成29年2月26日(日)
〔会場〕石川県医師会館 4階研修室

1 ● 開会の挨拶

石川県糖尿病対策推進会議委員長
(石川県医師会理事) 三輪 梅夫 氏



2 ● 基調講演

〔国の動向を踏まえた糖尿病の重症化予防対策〕

【座長】 石川県糖尿病対策推進会議 (金沢赤十字病院副院長) 西村 泰行 氏
【講師】 千葉県病院事業管理者、千葉大学客員教授 矢島 鉄也 氏



西村 泰行 氏



矢島 鉄也 氏

3 ● 各地域の協議会の取組み報告 (9 協議会)

【座長】 石川県糖尿病対策推進会議 (金沢医科大学教授) 古家 大祐 氏
石川県糖尿病対策推進会議 (金沢赤十字病院副院長) 西村 泰行 氏
石川県糖尿病対策推進会議 (金沢大学准教授) 八木 邦公 氏



古家 大祐 氏



八木 邦公 氏

加賀市糖尿病協議会



【発表者】
松下 重人 氏

会 長： 松下 重人 氏

- 事業内容：
- 医師向け症例検討会(3回)、コメディカル向け研修会(1回)の開催
 - 糖尿病週間行事の開催(テーマ:生活習慣病を予防しよう)
 - 薬局での随時血糖測定(参加人数49名、参加薬局14薬局)
 - 加賀市医療センターを中心とした病診連携(かもまるネットワーク)
 - 歯科医との連携(歯周病)
 - 加賀市国保特定健診での糖尿病重症化予防の成果についての検討

小松市医師会糖尿病連携推進協議会



【発表者】
湯浅 豊司 氏

会 長： 東野 義信 氏

- 事業内容：
- 小松市との連携(特定健診後、医療機関未受診者に対し小松市から受診勧奨)
 - 小松能美薬剤師会主導による「薬局での血糖測定のモデル事業」の実施
 - 診療所における栄養指導・運動指導の強化(医療機関から小松市の栄養相談・運動教室への紹介)
 - 病診連携・診診連携の強化
 - 糖尿病研修会、糖尿病症例検討会の開催

かけはしネットワーク能美



【発表者】
松田 健志 氏

会 長： 松田 健志 氏

- 事業内容：
- 月1回の協議会開催
 - 医師、薬剤師向け事例検討会の開催
 - サポートナース研修会の開催（糖尿病患者のフットケアについて）
 - 糖尿病予防教室の開催
 - かけはしチェックの継続（かかりつけ医に通院中の糖尿病患者の合併症評価等を年1回程度基幹病院で実施）
 - 住民健診での尿中アルブミン定量の導入

白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会



【発表者】
真田 陽 氏

代 表： 真田 陽 氏

- 事業内容：
- 糖尿病重症化予防のための連携体制強化（「糖尿病重症化予防パンフレット」の配付、「糖尿病の紹介・連携基準」の啓蒙活動、「安定期治療を担う医療機関一覧」の活用、糖尿病手帳の活用、糖尿病合併症検査（糖尿病ドックパス）の運用開始、行政としての取組み、調剤薬局との連携体制構築、栄養指導推進の普及と利用促進）
 - 学術講演会・スキルアップ研修会（5回）、市民公開講座（2回）の開催
 - 特定健診でHbA1c異常、脂質異常、メタボ対象者への75gOGTT検査の実施

金沢地域における糖尿病診療連携に関する連絡会議



【発表者】
竹田 康男 氏

代 表： 竹田 康男 氏

- 事業内容：
- 2016年日本糖尿病学会発表（2010年からの金沢市の取組み）
 - 糖尿病出前講座の実施
 - 金沢市の特定健診保健指導の強化（個別指導）
 - 糖尿病専門医と金沢市保健師等の連携推進のための研修会の開催（1回）
 - 石川県栄養士会との共同事業の実施（3カ所の診療所において月1回糖尿病の栄養指導を実施）
 - 金沢市における虚血性心疾患発症因子に関する検討

河北地区糖尿病発症・重症化予防ネットワーク協議会



【発表者】
古家 大祐 氏

会 長： 古家 大祐 氏

- 事業内容：
- 糖尿病診療の保健医療連携強化（協議会作成の「保健医療連携体制」を参考に市町の特定健診を切り口とした取組みを継続）
 - 医療従事者向け勉強会の開催（5回）
 - 住民向け糖尿病発症・重症化予防の啓発活動（第7回恋人の聖地内灘ロマンチックウォーク、津幡町糖尿病予防フェア、世界糖尿病デーブルーライトアップ等）

羽咋郡市糖尿病地域連携協議会



【発表者】
中野 茂 氏

会 長： 松下 栄紀 氏

- 事業内容：
- 無歯顎例（113例）を除外し、糖尿病患者328例をCVDの有無で分類しCVD（+）40例をCVD（-）288例と臨床像を比較検討し、歯周病重症度とCVDの既往との関連を検討した。その結果、年齢、腎機能に加え歯周病重症度自体が独立したCVD既往の予測因子であることが明らかとなった。

糖尿病患者を助け合う地域連携協議会・七緒の会



【発表者】
宮本 正治 氏

会 長： 宮本 正治 氏

- 事業内容：
- 症例検討会の開催（公立能登総合病院、恵寿総合病院各2回）
 - 糖尿病腎症重症化予防に関する講演会の開催
 - かかりつけ医、専門医と保健が連携した糖尿病重症化予防プログラムの推進
 - 糖尿病性腎症重症化予防連携パスの構築
 - かかりつけ医への糖尿病療養指導士の看護師、栄養士の派遣
 - 石川県民糖尿病フォーラム in 能登開催支援

能登北部地域医療協議会糖尿病重症化予防連携部会



部会長： 小泉 順二氏

事業内容： ● 研修会、活動報告会の開催

● 各地域のネットワークの強化(保健と医療の連携会議の開催、専門医とかかりつけ医の連携)

● 地域における啓発活動(病院フェアにおける講演会の開催、ブルーライトアップ等)

● 地域における重症化予防活動(栄養士指導受託・派遣事業、糖尿病友の会活動、眼科連絡票の活用、専門医への紹介状のツール作成)

【発表者】

飛岡 香氏

4 ● 関係団体の取組み報告

【座長】 石川県糖尿病対策推進会議(石川県立中央病院糖尿病・内分泌内科) 浅野 昭道氏



石川県栄養士会



会 長： 新澤 祥恵氏

事業内容： ● 3診療所に各1名(計3名)の管理栄養士が月1回出向き、栄養食事指導料を算定せずに栄養食事指導を実施。患者の選出は主治医に委ね、27名(平均年齢66.2歳)に実施した。結果、BMIの改善3名、HbA1cの改善2名、改善なし4名、数値的な改善はないが意識や行動に変化があった者4名であった。今後もクリアしなければならない課題が多いが、かかりつけ医で栄養食事指導を継続的に受けることができることは、糖尿病重症化予防の一助となると考える。

【発表者】

上田 広美氏

石川県糖尿病協会



会 長： 早戸 武志氏

事業内容： ● 会員1,000人を目指して3カ年計画を実施

● 活動強化のため、友の会未設置の病院を訪問(9病院)

● 基幹病院への協力要請、地域協議会・行政等との連携強化

【発表者】

早戸 武志氏

石川県国民健康保険団体連合会



事業内容： ● 科学的な根拠に基づく必要な検査項目の導入支援

● PDCAサイクルの事業展開の支援(対象者の明確化、個別保健指導、評価、管理台帳の作成)

● KDB(国保データベースシステム)の導入(H25年度)

【発表者】

荒木 早苗氏

糖尿病看護ケア研究会



代 表： 稲垣 美智子氏

事業内容： ● 糖尿病教室を開講できる人材の養成(加賀地区、能登地区で研修会を同時開催)

● 病院、地域とをつなぐことのできる人材の育成(研修会3回開催)

【発表者】

多崎 恵子氏

5 ● おわりに

石川県健康福祉部地域医療推進室次長 木村 慎吾氏

いしかわ糖尿病性腎症重症化予防プログラム(案)について

いしかわ糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定しました

糖尿病重症化予防の取組を推進していくため、石川県医師会、石川県糖尿病対策推進会議、石川県保険者協議会、石川県の4者で「いしかわ糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定しました。

今後は、このプログラムに基づき、保険者と医療機関等が連携して、各地域の実情に応じた糖尿病重症化予防の取組が進められることが期待されます。

プログラムの目的

糖尿病が重症化するリスクの高い未治療者・治療中断者を治療に結びつけるとともに、ハイリスク者に対して関係機関が連携して保健指導等を行うことにより、腎不全、人工透析への移行を防止する。

プログラムの性格

保険者による取組のさらなる推進を目指して、その実施が容易となるよう、取組の考え方や具体的取組例を示すもの。各地域における取組内容については、地域の実情に応じて柔軟に対応することが可能であり、既に行われている取組を尊重する。

関係機関の役割

石川県医師会の役割

郡市医師会に対して国や県の動向等を周知し、必要に応じ助言する。また、県や市町、保険者が取組を行う場合には、会員及び医療従事者に対して周知するとともに、かかりつけ医と専門医等との連携を強化するなど、必要な協力を行うよう努める。

保険者の役割

健診データやレセプトデータ等を用いて、加入者の健康問題等を分析し、取組の優先順位等を考慮して対策を立案する。取組を行う場合には、糖尿病地域連携協議会と連携するとともに、必要に応じて市町の協力を得て実施するよう努める。

石川県糖尿病対策推進会議の役割

構成団体に対して国や県の動向等を周知するとともに、医学的・科学的観点から助言を行うなど、自治体や保険者の取組に協力するよう努める。また、地域住民や患者への啓発、医療従事者への研修に努める。

県の役割

市町に対して国や県の動向等を周知し、必要に応じ助言する。また、保険者の実施状況をフォローするとともに、保険者における円滑な事業の実施を支援する観点から、関係者と取組状況を共有し、課題、対応策等について議論する。

取組方策

未治療者、治療中断者に対する受診勧奨

保険者が個別に定める基準に基づき、特定健診データ、レセプトデータ等から対象者を抽出し、受診勧奨及び保健指導を行う。

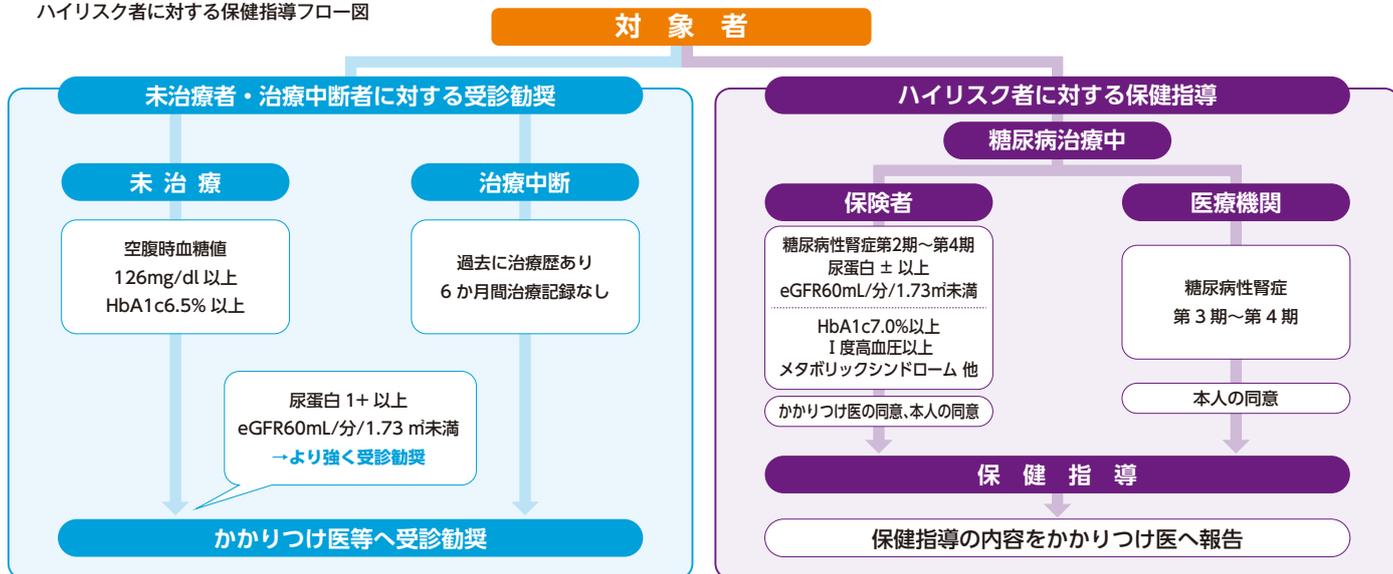
ハイリスク者に対する保健指導

糖尿病で治療中の者の中から保険者や医療機関が対象者を抽出し、本人及びかかりつけ医の同意があった者に保健指導を実施する。保険者は保健指導実施後、糖尿病連携手帳等を活用し、保健指導の内容をかかりつけ医へ報告する。

かかりつけ医と糖尿病専門医等の連携

かかりつけ医と糖尿病専門医は、「糖尿病の紹介・連携基準」（県糖尿病対策会議作成）を参考に、各地域で協議した方法により、必要に応じて紹介・逆紹介を行うとともに、合併症の治療を行う医師や歯科医等と連携関係を構築し、患者を中心とした医療を提供する。

未治療者・治療中断者に対する受診勧奨及びハイリスク者に対する保健指導フロー図





石川県地域医療支援センター

金沢市宝町13-1 金沢大学附属病院内 TEL.076-265-2991